

2021年
12月10日
金曜日

讚美歌21・229 ドイツ讚美歌集EG4「いま来たりませ、救いの主イエス、この世の罪を あがなうために。」

聖書 ローマ人への手紙 第5章 20節「律法が入ってきたのは、罪が増し加わるためでした。しかし、罪の増し加わるところに恵みも満ち溢れました。」

今日の聖書の箇所を読み解くのは非常に難しく、私がチャペルで取り上げることは無謀な企てに思えました。この難解な聖書の箇所から、生き生きたメッセージを読み取るのが不可能に見えたのです。しかし、私は、「恵み」とは、世界における断絶や格差の拡大を克服する力なのだとすることに、改めて気づいたのです。

今日のチャペルは、この問題を、アジアレベルで考えます。アジアという共通の空間を、人々が意識したのは、19世紀終わりでした。ほぼ1世紀後の1997年、東南アジアで

井口 泰 教授(労働経済学)

分離対立の克服 新しいアジア

発生し域内に伝染したアジア通貨危機を契機に、東アジア諸国は、域内の相互依存を強く認識し、地域の経済統合に向けて動きだしました。

2022年1月、地域包括的経済連携「RCEP」が、日中、アセアン6カ国、豪州、ニュージーランドの間で発効し、2月から韓国にも適用されます。モノの貿易ではほぼ9割の品目で関税が撤廃されます。東アジアの経済統合は悲願であり、画期的な出来事なのに、協定発効をお祝いする雰囲気は全くありません。

東アジアの域内のネットワークは、欧州や北米域内を上回る高度なレベルに達しました。経済理論的には、日本、韓国、中国、アセアンの諸国が、各国・地域の貿易の比較優位を最大限に生かして域内で産業立地を展開し、物流の効率化、技術の移転、人材の移動を進め、「サービスリンク」コストを低下させた結果です。

通貨危機後、二国間の自由貿易協

定は急速に増加しました。しかし、二国間で、ばらばらの原産地規則などのルールが形成され、「スパゲツテイボウル」のような状態になり、多国間ルールが求められていました。長年、政治摩擦や歴史問題を背景に、二国間で協定が締結できなかつた日韓と日中にも協定は適用されません。しかし、このRCEPが、新たな分断と格差のリスクに直面しています。

第1は、米中の経済摩擦が、安全保障を含む、大きな対立に発展し、アジアの産業立地に影響が出ています。2018年に始まる米中間の関税引上げは、東アジア域内のサプライチェーンに大きな影響を及ぼし、安全保障に関係するとされる物資の生産に影響が出ています。

第2に、RCEPの交渉開始時点で主要テーマでなかつた、域内における情報の移動、国営企業のガバナンス、知的所有権の保護、金融分野の自由化などが、重要課題となつて

きました。

第3に、サプライチェーンの発展したアジアで、サプライチェーンの末端で、児童労働、強制労働や人身売買など人権侵害が発生していないか、さらに、環境破壊が放置されていないかが、厳しく問われる状況が生まれています。アジアでは、経済発展を優先するために、労働や環境、人権に関する多国間の取組が進みにくいのです。コロナ危機後の東アジアのサプライチェーンの再構築には、こうした問題への取組みが不可欠です。今後のアジアのインフラ構築に当たって、環境保護のために長期的に投資を確保することも大きな課題です。

このように、私たちは東アジアを分断しかねない多くの力や新たな域内結束の課題に直面しているのです。それらを克服する取り組みこそ、あなたの未来を開くものだと信じます。